男子７３ｋｇ級

準決勝戦第１試合

３斎藤　涼　　⊖（小外掛）　　３赤迫　佑介
（旭化成）　　（ゴールデンスコア）　　（自衛隊体育学校）

ディフェンディング・チャンピオンの齋藤は４回戦まで寝技を駆使して一本勝で勝ち進み、５回戦を強豪吉薗（ダイコロ）に延長戦旗判定で勝利しての準決勝戦。

一方、昨年第３位の赤迫も快調に勝ち上がり、兄弟対決となった５回戦では兄諒介（戸髙鉱業社）を制して準決勝戦に駒を進める。

両者右組み、赤迫が時折左組手に転じて技を仕掛けるが、共に動きはなく延長戦に。

ゴールデンスコアによる延長戦では終了４秒前、斎藤が繰り出した小外掛に赤迫は体を崩して畳に落ちる。有効が宣告され試合終了。接戦を制した齋藤が決勝戦進出を決める。

準決勝戦第２試合

６鳥居　智男　　○　払巻込　　３山本　竜也
（Ｓ・Ｔ・Ｏ）　　（赤穂ＹＡＷＡＲＡクラブ）

通算優勝回数７回を誇る超ベテランの鳥居は年齢のハンディをものともせず、４試合中３試合を多彩な技による一本勝。対する新人山本、実に年齢差１５歳。

３８歳の鳥居は、山本を開始間もない３４秒電光石火、左払巻込で仕留めて一本。

決勝戦

３斎藤　涼　　⊖（内股）　　６鳥居　智男
（ゴールデンスコア）

決勝戦は前回大会決勝戦の再現。左右のケンカ組手の両者、齋藤は右から小外刈、大外刈、内股を繰り出し、鳥居は左から小内刈、内股、右一本背負投、体落で応戦するが、共に引手不十分で決めるに至らず。互いに指導１で引き分け、延長戦に突入する。

延長戦でも同じ攻防が続くが、鳥居がやや攻勢に進める中で迎えた２分３６秒、組手不十分なまま齋藤が内股で押し込むと、これが潰れて両者畳に伏せる。

この時、齋藤は鳥居の左腕を抱えるようにして伏せた体勢から右足を跳ね上げて鳥居を裏返して有効を奪う。
　齋藤が二年連続の鳥居との接戦を制し、二連覇を達成。